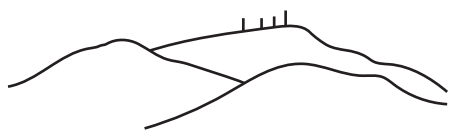


Youth Manna

2021/9/20 - 9/26



マルコ 1:35

さて、イエスは朝早く、まだ暗いうちに起きて寂しいところに出かけて行き、そこで祈っておられた。

2021/9/20(月)

ローマ 1:1-7

この手紙は、パウロがローマに行く前、彼のメッセージの一部をローマ人に紹介するために BC57 年頃書かれたと言われている。この手紙の冒頭が福音とは何か、イエスとは誰か、ということから始まっていることに目を留めたい。それは、パウロがそれらのことを最重要視していたからではないだろうか。信仰生活において大切なことは色々あるけれど、最も重要なことは福音とイエスであること、その実践として「神である主を愛する / 隣人を自分自身のように愛する (マルコ 12:29-30)」ことが最も大切である。

今日 1 日、福音とイエスに改めて立ち返って自分にできることはないか、探してみよう！

2021/9/21(火)

ローマ 1:8-17

パウロは、ローマにいる兄弟姉妹に福音を伝えたいという情熱を持っていました。パウロが福音をどのように理解していたかが 16 節に書いてあるのもう一度読もう！

パウロは福音を「信じるすべての人に救いをもたらす神の力」と告白している。私たちは福音にどれほど確信を持てているだろうか？

信仰は聞くことから始まる (ローマ 10:17) と聖書にある通り、聖書を読むことを通して私たちの信仰は成長します。日々のデボーションや聖書通読を引き続き頑張ろう！ぜひ 16 節は暗記して、いつでも思い出せるようにしておこう！

2021/9/22(水)

ローマ 1:18-32

パウロは、「福音に啓治されている神の義」(17)にあずかる道に話を進める。この箇所は、その神の義に逆らっているすべての人々、特に異邦人に対して向けられている「神の怒り」に焦点が当てられている。

創世記にあるように、人は本来、神の義をあらわして生きよう造られたものである。しかし人は、不義すなわち神への反逆によって神の義を失ってしまった。この箇所に列挙されている罪の姿は、私たちの日常の中にある現実である。この不義の世界に神の怒りが啓示されている。パウロは、この神の怒りから救われる道であるイエスキリストの福音を、これから解き明かそうとしているのである。

神の怒りから救われるイエスキリストの福音に導かれたことを感謝し、未だ救われていない人のために祈ろう！

2021/9/23(木)

ローマ 2:1-16

ユダヤ人は自分が選びの民であることを誇り、律法を知らない異邦人をよく裁いていました。それに対してパウロはそのような人達にこそ神の裁きがあること (1) 律法を知っているからではなく、神の心を知って行うことが義と認められること (13) 実は神様は異邦人にも心の中に良心という神の律法を与えていること (14.15) 選民として誇っていても終わりの日には神様は全てを明らかにして裁く (16) という真理を語りました。

私達も自分のことを棚に上げて誰かを裁いていることはないだろうか？？まず自分が神様の前に悔い改めよう。

2021/9/24(金)

ローマ 2:17-29

この箇所は、ユダヤ人に対して向けられて書かれているけれど、私たちにも当てはまる事が書かれているね。

ユダヤ人たちが、自分の持っている知識や知恵に頼り、人の賞賛を求めがちだったのに対して、私たちはどうだろうか？イエス様が「兄弟の目にあるよりは見えるのに、自分の目にある梁 (丸太) には、なぜ気がつかないのですか」と言っているように、他の人のことより先に、まず自分自身がどうであるかだね。29 節に書かれていることは、聖書のみことばを通して聖霊が私たちのうちに働いてくださるといことだよ。

ヘブル 4:12 にあるように、神様のことばは生きていて、力がある。みことばによって自分の心にどこに光が照らされたのか思い巡らし、神様に応答しよう！

2021/9/25(土)

ローマ 3:1-8

この箇所では『神様に委ねられた人が罪を犯したら、それは神様が悪いからか』『罪を犯して悔い改めることで神様の正しさが証明されるなら、罪をおかすことにもいい意味があるんじゃないか』なんて疑問を予想してそれに応えているね。

その答えはどちらも『NO』だった。私たちは人を中心に物事を考え始めるとどうしても、神様の『落ち度』を見つけるように理屈をつけたくてしまう。だけど、物事を中心に神様から考え始めてみよう。

神様がはじめから終わりまで治めている→神様は絶対に間違えない、真実な方→だけどそれに従えなかった私たちの罪→だから愛とあわれみをもって救いを与えてくださった→それは神様の他にはできない、だから神様の栄光が現される。

順番を考えたら大切なことはシンプルで、神様はどこまでも真実な方だね。その神様にしっかりより頼んでいこう！

2021/9/26(日)

ローマ 3:9-20

パウロは今日の箇所でこれまで語ってきたことをまとめています。それは「すべての人が罪の下にある」ということです。

パウロの言ったことをまとめると、
①律法を持っている者 (ユダヤ人) も、律法が心に記されている者 (異邦人) も、「律法を行う者が義と認められる」
②誰も完全に義を行うことはできない
③「人はだれも、律法を行うことによって神の前に義と認められない…律法を通して生じるのは罪の意識」である。

これまでの箇所では、神の正しいさばき (神の怒り) から開放される道はまだ説明されていません。しかし御子の福音が用意されています。そのことに感謝しましょう！